

CAMPUS

高等学校 修学旅行レポート 九州

2005.10/23日~27木・10/24月~28金

厳粛だった慰霊祭、そして阿蘇火口に感動

本校の修学旅行の意義は、平和学習と遺跡や歴史の現場、雄大な自然を自らの目で見て来ることを重点としております。その目的で国内修学旅行を考えたときには、九州が最適であると思います。

戦後60年を迎えた昨年は多くのテレビ局が平和について考える特集を組んでおり、淑徳では事前学習として、そのうちの「赤い背中」を観賞せました。長崎の爆心地公園で慰霊祭を厳粛に行えたのも、その成果ではないでしょうか。

その後の原爆資料館見学でも、平和がいかに大切なことなのかを実感し、各自がそのために何をすべきか、何ができるのかを生徒は考えさせられたようです。吉野ヶ里遺跡では、弥生時代の人たちが生活していた現場に立ち、古代に思いを馳せました。他にも阿蘇中岳の噴火口を



柳川の川下り



長崎・爆心地公園での慰霊祭

目の前にした経験や、雲仙岳災害記念館の見学を通して自然の雄大さ、恐ろしさを知り、有意義な旅行になったと思います。この旅行後の感想を書いた生徒の感想文が中日新聞と朝日新聞に掲載されたことは、誇らしく思っています。来年度も修学旅行は九州ですが、今年度よりも充実したものになりたいと考えております。

中学校 研修旅行レポート 沖縄

2005.11/1火~3木

沖縄の歴史・文化に触れた3日間

今年で4回目となる沖縄研修旅行は、初めてセントレア空港を使用して行われました。毎年、台風心配をしながら当日を迎えるのですが、そんな心配はどこ吹く風、旅行中の3日間とも、沖縄らしい青空と透き通った海が愛知淑徳中学校3年生を迎えてくれました。

1日目の南部戦跡巡りでは、ひめゆりの塔、平和祈念公園、そして壕と3つの見学地をどこも時間が経つのを忘れるほど熱心に見学し、多くの生徒がその悲惨さに涙しました。2日目の体験学習では、紅型や漆喰シーサーなどの制作、サトウキビの

収穫を恩納村の方から直接指導していただき貴重な経験をしました。

3日目にはおきなわワールドでエイサーを踊り、金城町石畳を歩いて登った首里城など、沖縄の歴史・文化に触れることもできました。万座毛や東南植物楽園など(ホテル前のビーチでも南国の大自然も満喫したのは言うに及ばせん。

わずか3日間という短い時間の中に、沖縄が持つ明るい面と暗い面の両方を、体全体で感じることができた研修旅行となりました。

(中3主任代行 福島和彦)



ひめゆりの塔



紅型の体験学習



首里城